

薬剤耐性(AMR)最前線

—薬学領域が担うべき、これからのAMR研究を考える

オーガナイザー

中南秀将(東京薬大薬)
輪島文明(名城大薬)

薬剤耐性(Antimicrobial resistance: AMR)に起因する年間死者数は、このまま何も対策を講じない場合、2050年には全世界で1000万人に上り、癌による死者数を超えるとの試算が報告された。これを受け、わが国においても16年からAMR対策アクションプランが実施されている。既存の抗菌薬を守り、新たな薬剤を開発するためには、薬学

領域の研究者が総力を挙げてこの問題に取り組む必要がある。しかし、わが国では、微生物学や医療薬学以外の領域において、AMRに関する研究が極めて少ないのが現状である。

本シンポジウムは、国内外のAMRの現状と薬学領域の研究者に期待されているAMR研究を知っていただくことが目的である。これによって、薬学会のAMR研究が活性化し、生物・医療・化学などの分野横断的な研究テーマが生まれることを期待する。

(中南秀将)

中分子創薬研究のフロンティア

—多種多彩な中分子創薬へのアプローチ

オーガナイザー

重永章(福山大薬)
辻耕平(東京医歯大生材研)

低分子医薬品とバイオ医薬品の両方の利点を合わせ持つニューモダリティとして近年、中分子医薬品が注目されており、その市場規模は年々拡大傾向にある。代表例としてペプチドや核酸が挙げられるが、中分子はそれらのみではなく、例えば糖鎖や脂質、人工キメラ分子など、幅広い分子種を含む。このため、様々な分野の研究者が、多種多様な中分子創薬研究を活発に行っ

ている。

中分子創薬研究のフロンティアでは2015年(第135年会)から、中分子創薬研究に携わる様々な分野の専門家をお招きし、最先端のトピックをご紹介いただいていた。今回は多様な分子種を基軸として研究を進める気鋭のシンポジスト6人をお迎えし、次世代の中分子創薬トレンドを見据えた多彩な最新研究の一端をご紹介いただく。多角的視点から多面的な知見および知識を共有することで、中分子創薬研究のさらなる発展に寄与できることを期待している。

(辻耕平)

生体の修復と健康を司る

「血管ダイナミクス」の役割

オーガナイザー

長谷川潤(神戸薬大)
水谷健一(神戸学院大院薬)

ヒトの体を構成する全ての細胞は、生存のために酸素と栄養分を必要とし、それらは全身を網羅する血管によって供給される。16世紀のWilliam Harveyによる血液循環の発見以来、長らく血管はこうした「生命維持のための管」であり、健康な成体においては安定な組織であると信じられてきた。一方、ヒトの体が健康を保つためには、外部環境の変化や体内の様々な状況に

応じて臨機応変に調節を行う必要がある。近年の研究は、安定な組織であると信じられてきた血管が、体の必要に応じて動的に変化し、単なる管を超えた多様な動きを示すことを明らかにしてきた。

本シンポジウムでは、こうした血管の新たな機能やダイナミクスが、ヒトの健康維持にどのように役立っているのか、疾病治療にどのように応用されるのかについて、血管研究の第一線の先生方に最新の研究成果を紹介していただき、今後の血管研究の方向性を議論したい。

(長谷川潤)

マイクロ・ナノプラスチックの

ヒト健康影響の解明に向けて

オーガナイザー

堤康央(阪大院薬)
辻野博文(阪大院薬・阪大博物館)

近年、SDGsにて警鐘が鳴らされているように、プラスチック製品による生態/生体系への負の影響が世界的に危惧されている。中でも5mmよりも小さいサイズのプラスチック微粒子であるマイクロプラスチック(MP)が問題視されており、昨今では特に1μmよりも小さなナノプラスチック(NP)への懸念が高まっている。MPやNPは今や飲料水や食塩、人の糞便、血液、

胎盤からも検出されるなど、ヒトが曝露されているのは、紛れもない事実であるものの、サイズ、材質、形状、表面性状など物理化学的特性の複雑さがヒトの健康に及ぼす影響は明らかでない。

本シンポジウムでは、マイクロ・ナノプラスチック(MP・NP)のヒト健康影響の評価基盤の構築や生体に及ぼす影響についてその最新トピックについてご紹介いただき、将来的なMP・NPのハザード解析を論じる機会としたい。

(堤康央)

若手による薬学的視点からの

保健機能食品研究

オーガナイザー

長野一也(和歌山県医大薬)
内山博雅(大阪医薬大薬)

近年の健康志向の高まりから、特定保健用食品や機能性表示食品といった保健機能食品が注目されている。このような背景から現在、その開発件数は増加の一途を辿っているものの、ずさんな開発は、健康被害をも引き起こしており、昨年度、食品衛生法の改正に至っている(健康被害情報の届出の義務化)。従って、超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が課題となっているわが国では、高品質な保健機能食品の開

発が求められている。

そのためには、単に、食経験を有した生理活性物質を生体に投与して、機能を解析することにとどまらず、薬学的な視点から、製剤加工による機能性の向上や物理化学的特性の理解、投与後の体内動態、安全性評価、機能発現機序の解明などを通じ、その品質担保が重要である。

そこで本シンポジウムでは、これらの視点で高品質な保健機能食品の開発を目指している若手の先生方に講演いただき、今後の保健機能食品の開発のあり方を議論させていただきたい。

(長野一也)

薬学における生命指向型化学

—先端的な分子イメージングを
実現する機能性分子開発の最前線

オーガナイザー

藤川雄太(東京薬大生命)
浅沼大祐(東大)

近年、機能性分子の開発を軸にした分子イメージング研究が光、放射線、磁気などを利用した多様なイメージングモダリティで進展し、大きな盛り上がりを見せている。これまでにモダリティの異なる研究は別々の場で議論されることが多かったが、小分子あるいは中分子に基づいた機能性分子の設計・開発、応用では研究アプローチに共通点も多く見られる。

そこで、様々な分野の研究者が一堂に会する薬学会において横断的な分野のシンポジウムを開催することは、

個々の研究のさらなる活発化や発展、さらにはイメージング技術の薬学分野への多大な波及効果も期待される。

本年度の「薬学における生命指向型化学シンポジウム」では、先端的な分子イメージングおよびセラノスティクスへのアプローチを展開している新進気鋭の化学系研究者の方々にご登壇いただく。具体的には、ラマン散乱光やりん光、蛍光、放射線などを利用した分子イメージングプローブの開発およびその生体応用についてご講演いただく。これによって、最前線の分子イメージング研究について多くの薬学研究者と情報を共有し、議論する場としたい。

(藤川雄太)

医薬業界から取り組んできた、「本当に安心して暮らせる地域社会の実現」とは？

ちかくにいる。ちからになる。

メディカルシステムネットワークが目指す未来

メディカルシステムネットワークグループ
株式会社北海道医薬総合研究所取締役会長

本間克明 著

地域医療の明日を支える、株式会社メディカルシステムネットワーク。

なの花薬局/さくら薬局/永富調剤薬局/薬局経営支援サービス「医薬品ネットワーク」/LINE公式アカウント「つながる薬局」

その想いや理念を創業当時から知る著者による「挑戦」の全てを記した一冊！

—【目次】—

はじめに 人生を変える出会い
HISTORY グループの歩み
第1章 医薬品ネットワークという流通改革

第2章 「まちのあかり」としての地域薬局
第3章 プラットフォームで実現する未来
おわりに 「まちのあかりの、その先へ」

詳細はこちらから!!



四六判/161頁/定価 1,760円(本体 1,600円+税)

“電子書籍版”
も発売中!!

本書は、薬事日報社オンラインショップ、Amazon、楽天、ヨドバシドットコム、MobileBook.jp(どこでも読書)などでご購入いただけます。

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/